

令和5年12月26日

2023年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人光と風と夢
 ホーム名 自立援助ホーム みんなのいえ
 代表者・役職名 氏名 小倉 淳(理事長)

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

チームビルディングを通して若者たちと支援スタッフが紡ぐ対話プロジェクト

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

児童養護施設での指導員としての経験と、社会福祉法人のコンサルタントを経て多くの社会的養護の子どもやそれに従事する職員と出逢いを通して柔軟に子ども、若者の暮らしを保障することができる生活の場をイメージして2016年11月に創設をしました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

困難な状況で暮らしてきた若者の支援には、手厚い職員体制が必須ですが、OJTだけでは学びきれない実状があります。そこで、対人援助職に求められる自己覚知やコミュニケーション能力、チームワーク等を「対話」を軸としたチームビルディングを通して学び、その知見を活かして、若者たちとの対話を重ねるプロジェクトを実施します。支援者のエゴに依らずオープンな関係を基盤とした支援体制構築によって支援を底上げします。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ①対話を軸にしたチームビルディング研修(法人と自立援助ホームのビジョン共有などを含む)
 - ②スタッフ個人への1on1(1対1)研修
- ※①と②を並行して実施しながら…
- ③合宿形式の若者たちとの語り合いの場(会場:館山市の貸別荘 Private Garden Tateyama)
 - ④日常における子どもたちとの対話の振り返り

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの「効果」 300文字程度まで

プロジェクトを長期計画(4月～11月)で実施しました。

- ①4月:ホーム内職員研修実施(ホーム内での自分理解、子どもと関わる上での意識&無意識を知る場)
- ②5月:一般社団法人キャリアヘルス研究所の谷口氏に1on1研修としてスタッフ5名へ団体活動への意義や目標などを自己点検してもらう機会をつくり、活動への参加意欲や内発的動機付けを実施しました。
- ③6月:①と②の研修を経てホーム内職員研修実施しました。(法人と団体活動の共通ビジョンを再確認する場)
- ④6月:スタッフ研修として千葉市少年自然の家を会場に非日常でのスタッフ研修実施をしました。(自然体験とチームビルディングで共有体験と自己覚知の切っ掛け作り)
- ⑤7月:夏休み期間中を利用して、館山市まで子どもたちと1泊2日の宿泊プロジェクトを企画し海遊びや自然体験、BBQ等を通して気持ちを解放し、その夜には星空を眺めながらの語り合いの場を実施しました。
- ⑥9月、11月:子ども、スタッフそれぞれに「対話」の大切さを実感してもらう振り返りの場を実施しました。

今回のプロジェクトによる成果として、子ども支援に携わるスタッフ各自が自分自身を知り、共に働くスタッフを知ることと尊重する意識と自己課題を知ることが出来ました。そして、支援する側の「意識」を強化することで子ども支援における対話の大切さと、共同体験の必要性を子ども達との1泊2日のプロジェクトを通して実践することが出来ました。広報誌を通し支援者の方に活動報告をさせていただいた折、みんなのいえのような多様性を尊重しながらも社会性を育む場が、これからも必要だから継続して励んで欲しいという声が多数寄せられています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

子ども支援をする上でスタッフ間での関係性や連携強化、ビジョンの共有などは大切なことですが、今回のプロジェクトを通して1番感じたことは、支援する側のスタッフも、される側の子ども達も関係性は常に平等になればいけないということです。「対話」とは、上下関係のない間柄でこそ相手を敬い、影響を受け、人間成長に繋がるものだということを改めて学ぶことが出来ました。一見当たり前のように思えることですが、子ども、若者と関わる仕事をする上でこの感覚を忘れてしまう施設や家庭ほど、抑圧や管理統制が蔓延し、権利侵害に繋がるのだとも思います。当団体は、今後も自立援助ホームの活動を通してスタッフが人として成長できる場、子どもにとって安心できる場としてあり続けるため、今回のプロジェクトをさらに飛躍させ次年度も、「対話」で人と人とが紡がれていくような事業を実施していきたいと思えます。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

みんなのいえ 夏プロジェクト 2023



今回の夏のプロジェクト（以下：夏プロ）は、チーバくんのつま先！館山の海へ♪

スタッフのこえ

プログラムリーダー：なっちゃん

初挑戦したシュノーケリングでは魚達と泳ぎ、BBQにスイカ割り初めての連続で子ども達も笑い声を響かせ自然を満喫。

そして…今回のテーマにしていた『対話』。夜空の下で他者の声に耳を傾け、過去や未来に思いを巡らせる姿は感慨深く、気持ちの表出が誤解を理解に変え、人の心を繋ぐことができた時間となりました。この夏プロを実行するにあたり、『真如苑助成事業』として真如苑様より助成して頂いたことで、チームビルディングなどのスタッフ研修を積み重ね、大人もまた基盤強化を図ることが出来ました。スタッフが今を生きる若者達と紡ぐ貴重な時間は、人間関係の構築を感じる基調で価値あるひと時となりました。こうした企画を実施することが出来たこと本当に感謝しています。ありがとうございました。

やまさん

「対話」をテーマに海もBBQも、みんなで楽しみました。夜空を見上げながら仲間たちと語り合う時間もありました。これまでよりも、もう一歩お互いを深く知るきっかけになりました。素敵な夏プロ2日間、最高でした。

みっきー

海水浴が初めてという子も、泳げないと不安をのぞかせていた子も海に潜って、浮き輪で浮いて波を感じたり、シュノーケリングにドキドキ……でも挑戦する姿や、思い切り楽しむ姿、何よりも非日常の時間を思い切り満喫して、体感してみせてくれる、みんなの笑顔が忘れられない2日間となりました。

初挑戦の連続、 そして対話の旅

good
trip

若者たちのこえ

友達と遊びに行くのとは
違った楽しさがあった。
夏プロまた行きたいな。

(T君)



海で浮き輪を使って泳げたこと
や、みんなでスイカ割りをしたのが
とても面白かった。

めちゃくちゃ笑いました。

(M君)

シュノーケリングは少し心配だった
けど、海辺の鑑定団の人たち
や、みっきー、なっちゃんが泳ぎ
方をレクチャーしてくれたので楽
しく潜ることができました。

(K君)



初めての シュノーケリング



全力で海を楽しんで、全力で身体を焼
いた。BBQはたくさんのお肉や野菜
を焼いて、食べてお腹いっぱいになっ
た。参加した子ども、大人でゆっくり
と対話をする時間では、心を落ち着け
て話を伝えることが出来た時間でした。
(Y君)



子ども同士 大人との 対話

